

古道開通を祝い、黒森山へ記念登山

金沢諏訪堂の会が2年がかりで黒森古道を整備

6月14日、金沢から黒森山へ通じる「黒森古道」の開通を祝う記念登山が行なわれた。



①倒木を切断

「金沢諏訪堂の会」(熊谷章会長)が主催。諏訪堂の会の会員と、交流のある「安孫子山の会」(千葉県・藤野誠治会長)、福田世喜氏(美郷町教育長)、風登森一氏(秋田県立博物館々長)ら総勢15人が「新しい古道」を歩いて黒森山に登った。

大きくなれ、ブナの木

6月16日、町の水環境保全プロジェクトの一環として、七滝山の中腹で「水の森植樹事業」が

動センターでは、七滝土地改良区の藤岡義博事務局長が「森林のはたらき」と題して児童たちに植樹



②約 600 m先に黒森山

諏訪堂の会は、平成23年に設立された。「諏訪堂」という地名は、金沢中ノ目川の上流域にある山林を指す。会には美郷町や横手市などの住民20人が所属しており、里山の再生を目指した活動を続けている。林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金」に採択され支援を受けている。

60年前までは交易に使われていた。県境を越えて人々が行き交った山道を、「歴史を愛し文化を育む」「山と共に生きる」をテーマに活動する諏訪堂の会の会員らが、2年以上かけて整備し開通させた。

「みずほの里ロード」を横手市に入ってすぐのところ、中ノ目川(金沢ダムのある川)の左側を通る林道が、黒森古道の起点になる。山へ向かって進むと、いつしか林道は細い山道(写真①)へと変わり、辺りの景色も林檎園から杉林、ブナ林へと移り変わった。

御嶽山(751m)と黒森山(763m)を結ぶ稜線に出る(写真②)までの約6キロを、汗を流しながら黙々と歩く。途中には、武衡沼、家衡沼、鏡沼(写真③)など、クロサンショウウオやモリアマガエルの生息する貴重な水環境があった。



④黒森山で祭文を読み上げる熊谷会長



③希少種の生息する鏡沼

いずれも後三年合戦にちなんで命名されている。約4時間かかって黒森山に到着。山頂にいた六郷登山協会の会員と一緒に神事を行なった。熊谷会長は祭文を奏上(写真④)し、藤野会長は黒森山の漢詩を詩吟に詠んだ。参加者は神前に向かい厳かに手を合わせた。